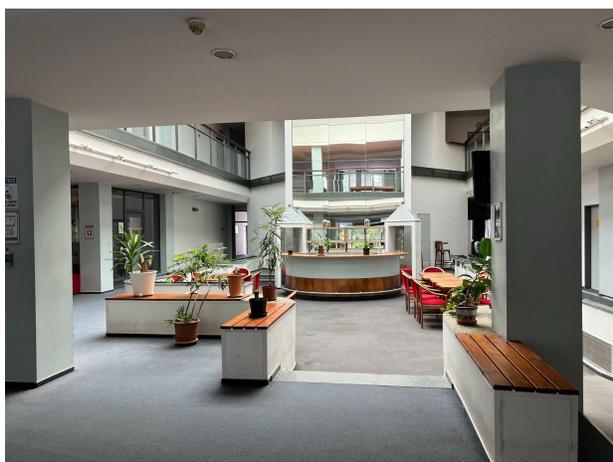


福原 麻由
留学先: チェコ生命科学大学(CZU)
科目名: 情報学
2022年 8月11日

ロータリー一月例報告書 Vol. 11

1年次が無事に終わり、現在は一時帰国をして北海道で夏休みを過ごしています。帰国前は、プラハの街を観光したり、友人とゆっくりとした時間を楽しむことができ留学中の思い出が増えました。今回の報告書では、プラハの日常生活や休暇の様子をご紹介します。



写真左: 大学寮のエントランス、写真右: 大学寮の部屋

1年次の間は、大学寮に住んでいました。部屋は二人部屋でこじんまりしていますが、共有スペースが充実しています。そのため友人と一緒に勉強がしやすく良い環境であり、同じ寮に住んでいるとこのようなフリースペースで交流の場が多くあり知り合いが増えたのも良い点でした。寮で出会った友人は勉強面で助けてもらったり、留学生活についてアドバイスをもらったり大変心強い存在でした。寮での生活は人との繋がりが増えて良い経験でした。寮から大学までは公共交通機関で1時間弱かかるので遠いですが、生活には困りません。周辺にはスーパーやカフェ、公園があり大学がない日はほとんど寮で過ごしていました。



写真左: 近所のスーパーBILLA、写真右: 自炊

プラハでの食生活は基本的には自炊をしています。近所にいくつかスーパーがあるので材料を買い、日本から持ってきたシリコンスチーマーで調理をします。電子レンジだけで食事ができるので特に重宝している品です。食品に関しては、物価は日本よりも僅かに安い印象がありますが、ウクライナ情勢の関係なのか特に卵の値段が3ヶ月で2倍になったそうで、今後も価格変動がありそうです。しかしながらほとんどの食品は問題なく購入することができるのでこれからも自炊を続けたいと思います。



写真左: Roasted duck quarter, red cabbage, dumplings, onions Viennese、写真右: Pho

テストが終わり夏休みに入り、念願のチェコ料理を食べに行きました。大学があるPrague 6という地区にあるローカルレストランで写真左のチェコの伝統料理をオーダー。チェコでは、煮込まれたお肉やポテトと一緒にダンプリングと呼ばれるパンを丸めて茹でたような主食が添えられています。モチモチとした食感でソースに良くあう食べ応えのあるお料理でした。また店内ではお料理と一緒にビールを飲む人がほとんどで、ビール好きな人が大変多い印象を受けました。さらにレストランやバーではビールの価格は500mlで250円ほどです。次回はチェコビールに挑戦したいと思います。

写真右は、ベトナム料理のフォーです。2021年チェコ統計局によると、チェコの民族の割合は、チェコ人83.8%、その他スロバキア人、ウクライナ人、ベトナム人等で構成されているそうで、普段プラハで暮らしているとベトナム料理店をよく見かけます。テスト期間中に外食で済ませたい時は近所のベトナム料理店によくお世話になりました。地元での北海道ではなかなか食べる機会がなかったので、プラハでチェコ以外の外国料理を食べられるのもまた面白い経験でした。ヨーロッパの食事でも美味しいですが、やはりアジアの料理を食べると落ち着きます。自炊をしながら、たまに友人と楽しく食事をするなど2年目も健康的な留学生活を送りたいと思います。



写真左:ミュシャ美術館、写真右:ミュシャ美術館の入場チケット

チェコ出身の有名な画家であるアルフォンス・マリア・ミュシャ(Alfons Maria Mucha、1860年7月24日 - 1939年7月14日)の美術館に行ってきました。彼の代表的な作品が写真左のような入場チケットになっており、中に入ると数々の作品があり、また彼の生涯を紹介するビデオが上映されていて美しい絵画と作者の歴史を知りプラハでの芸術の時間を楽しむことができました。

最後に、大学一年目は周囲の人の支えがあり無事に終了しました。2年目もお世話になった方々や友人との繋がりを大切にし、目標に向かって邁進します。



写真:カレル橋にて